

プロフェッショナルから学ぶ

実践講座2

CMの照明技師が教える

ビューティー系 ライティング入門

現役バリバリで日々CM撮影の現場で照明技師として活躍されている
トッティ(トダマサヒロ)さんに、スタジオを使ってライティングの方法を見せてもら
使用するライトはビデオグラファーでも購入できるAputureのLEDライト。
CMで実際にやっている手法を紹介しつつ、最終的にはそれに近い表現を
2灯のドームライトを使って実現する方法を実践する。

撮影協力●東京ビジュアルアーツ、黒沢寛、Aputure 構成・文・写真◎編集部 一柳

講師
トッティ トダマサヒロ

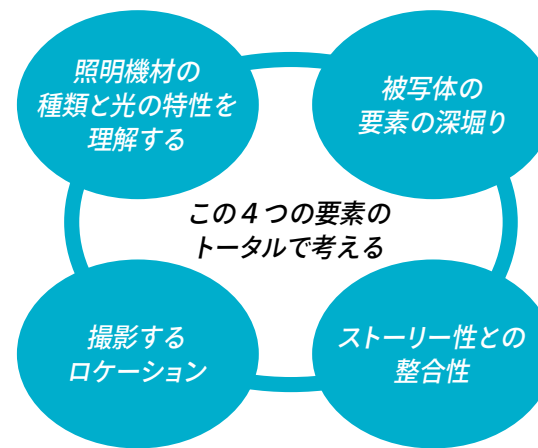
2006年 東京ビジュアルアーツ卒業後、フリーの照明アシスタントに。
2010年、岸本秀一氏に師事、2016年にCM照明技師として独立。アティダ
ス・ジャパン[GREEN LIGHT RUN]でコードアワード2017受賞。2018年6
月からYouTubeを始める。2021年から東京ビジュアルアーツの非常勤講師。
YouTubeはトッティチャンネル2.0[Totti channel2.0]で検索



基礎編

原理原則として押さえておくべき 超大事な4要素とは?

ライティングは現場で照明技師が一体何をやっているのか分かりにくく、難しいように思われるかもしれませんが、実はひとつひとつの要素を細解いてみると、考えていることは実にシンプルです。ただ、それぞれの単独のテクニックとしては正解だとしても、映像作品にとって正解とはなりません。映像作品と成立させるためには、右の4つの要素をすべて兼ね備えている必要があるからです。今回は、「スタジオでのビューティー系ライティングの実践」というテーマですが、その前提として、基礎知識と照明技師が何を考えているのかというお話をしておきたいと思います。



Check Point 1 照明機材の種類と光の特性を理解する

●光の特性として「点光源」と「面光源」を知っておく



まず基礎中の基礎として、「点光源」と「面光源」という概念がある。点光源というのは太陽のように光源が点になっているもの。スポットライトからそのまま打たれた状態。影が硬く強めに出るのが特徴。それに対してフラットパネルのように光が面になっていると、同じ距離から光を当てても点光源よりも影が柔らかくなる。これが点光源と面光源の大まかな違い。

●たとえば今回使用した照明機材はこれ



LEDスポットライト
Aputure LS 300x

ソフトボックス
Aputure Light DOME II

LEDパネルライト
Aputure NOVA P300c

今回の講座で使用したのは左の照明機材ですべてAputure製です。上で点光源を作っているのはLEDスポットライトのLS 300xです。このライトに装着して使うソフトボックスも次ページ以降で使用していますが、照射面積が広がり点光源を面光源にすることで光が柔らかくなります。面光源を作ったのがLEDパネルライトのNOVA P300c。女性を美しく撮るためには光を柔らかく、陰影の繋がりを良くしていく方向ですが、そのためにはそのまま当てるのではなく、次項で紹介するように、透過や反射という手法を使います。

●光の演出の5つの技法とは？

ライティングとは光の演出です。単にライトを用意して当てればいいのではなく、光をコントロールしていく必要があります。そのための技法としては、①打つ、②透過、③反射、④影出し、⑤色出しという5つがあります。

光を柔らかくしていくには、トレペなどの光を透過する素材をかざして「透過」(ディフューズ)させたり、白や色が

ついた板状のものに光を「反射」させるといったことをします。透過と反射の違いですが、透過のほうが方向性が残り、反射はより光が拡散します。ライトを置けるスペースによっても使い分けます。④影出しはフラッグなどで光を遮ること。引き算していくことも重要です。⑤はフィルターなどで色を付けることです。

① 打つ

② 透過

③ 反射

④ 影出し

⑤ 色出し



ディフューズして光を柔らかくする。



カポックに反射させて光を柔らかくする。



フラッグで光を遮る。軒を想定した影を作った。



フィルターで色を付ける。

Check Point 2 被写体側の要素を考える～特にメガネと帽子に注意

次に考えるのが被写体です。その要素としては「形」「大きさ」「透明度」「光沢感」があります。これを被写体を人物(特に女性)とした場合はどうなるでしょうか? 気をつける要素としては、「肌と洋服の色」「髪の毛の分け目」「メイクの光沢感」「メガネ」「ぼうし」となります。肌の色や洋服の色によってライティングはまったく変わってきますし、髪形によって、影の出方が変わってくるので、光を当てる方向を考慮しなければなりません。メイクはライトを当てるとギ

ラツとなってしまいがちなので、マットなメイクをしてもらうことが多いのですが、それでもキラつかないように注意する必要があります。やっかいなのがメガネです。フレームの影が気になったり、ライトがレンズに映り込む場合は、ライトの位置を追い込んでいく必要があります。帽子も影を気になりますので、ライトの位置を変えたり、被り方を調整してもらわなければなりません。つまり照明だけの問題ではなく、演出、メイク、本人との調整になります。



メガネのフレームの影が出た。

ライトの位置を調整した。



ライトがメガネに写り込んだ。

ライトの位置を調整した。



帽子のツバの影が出た。

ライトの位置を下げた。



帽子の被り方を変更してもらった。

Check Point 3 撮影するロケーション～消せないライトがあるのか？

今回は一から光を作っていくことができるスタジオで撮影していますが、そうでないケースがほとんどだと思います。実際にライティングを考える場合に大きなポイントになるのが、「外からの光が入ってくるのかどうか?」「その場に消せないライトがあるのかどうか」ということでしょう。そういった観点で撮影するロケーションを考えてみると、「外」「ロケセット」(ハウススタジオや工場などロケとセットの組み合わせ)「スタジオ」の3種類に分類できます。

撮影側では消せない光があるとしたら、その光を補ったライティングをするしかありません。たとえば会場にすでに光があり、そこに照明を加える場合、色温度が合わないと不自然に見えるので、意図しない限り色温度をあわせませす。また、外から太陽光が入っている室内の場合、ライティングする場合は同じ方向から照明したほうが自然に見えます。消せない光と整合性をとることで、ライティングがより自然になっていきます。

●消せない光と照明の整合性を考える



その場の消せない光と照明の光の色温度が異なり不自然に。



照明の光の色温度をその場の光の色温度に揃えて自然な状態に。

●消せない光と照明の整合性を考える



自然に見られる映像に。



照明のプロとしては恥ずかしい照明。

Check Point 4 ストーリーとの整合性が一番大切

ここまでライティングの要素をご紹介してきましたが、映像作品におけるライティングで一番重要なのだが、実は最後に取り上げる「ストーリーとの整合性」です。

照明は何が正解かという答えがありません。答えはないのですが、ゴール地点を決めることはできます。そのゴールとは、その映像が伝えたいこと、つまり「ストーリー」との整合性だと言えるでしょう。そのゴールに向かってのアプローチであれば正しい方向ということになります。

たとえばリアリティを追究したドキュメンタリーで、人物インタビューで背景まで作り込んだライティングをしたらどうでしょうか? そのライティングがいかに美しいとしてもそれは正解とは言えません。ゴールに向かってのアプローチ

としては間違っているからです。逆にある映画のイメージに合った劇的な陰影のあるセットを組んで、その映画に登場した俳優をインタビューしたとしたら、それはイメージに合致して整合性が取れていることになります。ビューティーライティングにしても、その映像の目的が明確にあります。CMなどで女性の肌をキレイに見せたいということです。単にキレイに撮るというテクニックを身につけるのではなく、どうしてこのライティングにしたのか、どうすればそういう表現になるのか説明できることが重要です。これは照明に限らず、カメラも音声も同じで、ストーリーとの整合性を追求できるようになれば、映像制作全体が一気に分かるようになるはずですよ。



明部から暗部まで差をつけず、柔らかい光が繋がっている

カメラの設定
ISO800
30p
F4 (ノーマル露出)

2倍 F5.6

1/2倍 F2.8

1倍(ノーマル) F4

光のバランスの法則は
2:1:1/2。つまり強い(明るい)
ほうはノーマルから1段明るく、
弱い(暗い)ほうはノーマルから
1段暗い。つまりトータルで2段
しか差がない。それが柔らかく
くると繋がっているイメージ。



●カメラアングルも調整する



最初のアングルはこの角度だった。モニターを見ながらトッティさんはカメラ位置を上げるように指示。少しカメラの位置を上げてアングルを変えて顔がすっきり見えるようになった。

●アイキャッチと髪の艶



アイキャッチはこのようにふたつ入っている。髪の毛も艶もキレイに出ている。もし髪の逆側が重く感じるようであれば、逆から打つのではなく、トッティさんであればトップに入れると言う。

●露出計で追い込んでいく



露出は正面、下手、上手、それぞれの方向からどれくらいの光量かを確認する。体や手で遮りながら、別角度からの光の影響を受けないようにする。モニターで目で見て判断するのもいいのだが、露出計があると、同じ状態を再現することがやりやすくなる。

実践編

大手化粧品メーカーのCMでのライティングとその簡易版をやってみましょう

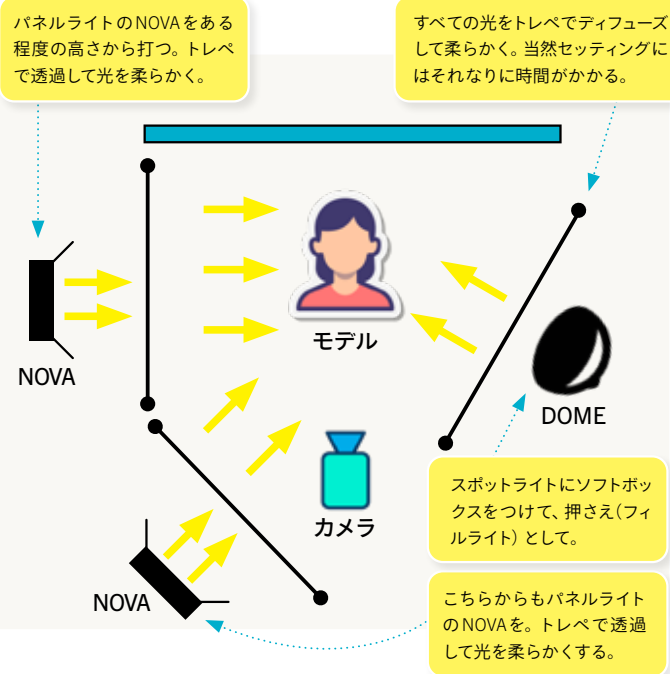
では、実際にスタジオで女性を美しく撮るライティングをやってみましょう。テーマはもう明確になっていますね。大切な要素としては以下の3つになります。

- 髪の毛の艶
- 肌の透明感
- アイキャッチ

これを念頭に入れてやってみましょう。参考になるのは、大手化粧品メーカーのCMのライティングです。実はその光のバランスには法則があります。

2:1:1/2です。

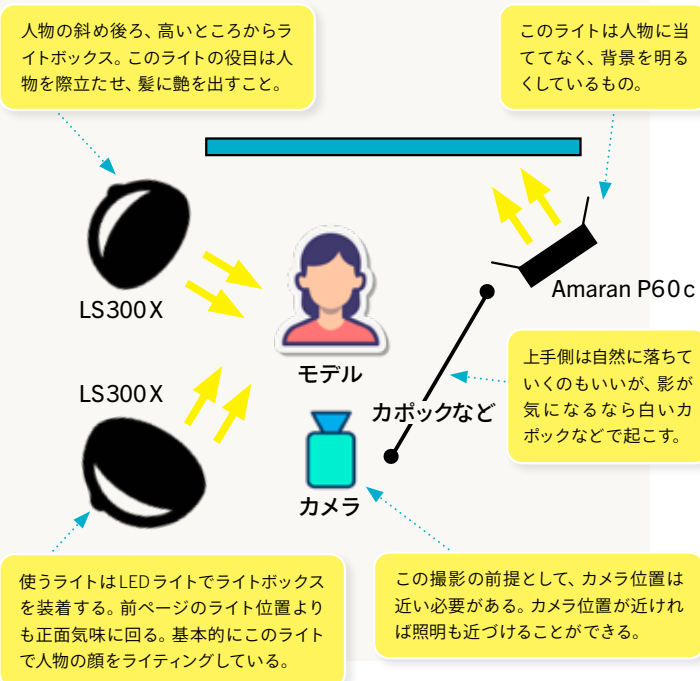
これは何を意味するかというと、光量の倍数計算で、人物の顔で、光が下手から来るとすると、下手側が2倍(ノーマルに対して1段明るい)、正面が1倍(つまりノーマル)、上手側が1/2倍(ノーマルに対して1段暗い)という光のバランスだということです。



がお分かりいただけかと思ます。

ただ、慣れていない学生のセッティングだったとは言え、トレペをぐるっと垂らすにはそれなりの手間と時間がかかります。ここまでの時間は取れないということも多いでしょう。そこで、LEDライトのソフトボックス(ドーム) 2灯を利用した簡易的なセッティングでも近い表現できるので、ここでご紹介します。ただし前提があります。ソフトボックスをそのままの状態より面光源として機能させるためには、ライトを近づけなければなりません。そのためにカメラ位置は先程よりも近くである必要があります。ライトの位置は以下の図を参考にしてください。キーライトはカメラの下手、やや高い位置から打ちます。顔はほぼこのライトで賄っている状態です(アイキャッチはこのライトひとつ)。もうひとつのソフトボックスは下手の人物の後ろ気味からバックライトして打ちます。これは髪の色を出す目的です。上手側は自然に落ちたままにします。これで雰囲気が出ますが、暗部が気になる場合は、カポックなどで起こすでしょう。セッティング時間は圧倒的に短くな

基本的にライト2灯で 短時間セッティングでできる ビューティーライティング



LEDライトのソフトボックス2灯で簡易的なビューティーライティング



上手側は自然に落とした状態。雰囲気を残した。



カポックを立てて上手側の影を弱めた。

●証明写真のようなライティングはどうするのか?



ライトの位置を正面、カメラの上に持ってきた。



さらに手前にカポックを置いて顎の下の影を抑えた。

ります。

いかがでしたでしょうか？ここではビューティーライティングの方法をふたつ紹介しました。

かつては大掛かりなセットでしかできなかったことがLEDライトの進化によって個人が購入できるライトで、小規模でもできるようになってきましたので、ぜひ挑戦していただきたいと思います。

ライティングはシンプルな要素の集合体です。いろいろな条件をクリアする必要がありますが、ひとつずつ紐解くと実にシンプルです。お伝えしたかったことは、ライティングはテクニックではなく、概念だということです。ビューティーライティングもこの講座で「概念」をお伝えしましたので、それをお持ちの機材、できる範囲で実践していただければと思います。